

紙素材トイレ 優しい救護



徳島・大塚包装工業

培ってきたパッケージ技術を駆使し、大塚包装工業（徳島県鳴門市）が段ボール製の簡易トイレやベッドを開発した。1月の能登半島地震の被災地へも支援物資として届けられた。

商品を取めるオーダーメイドの箱や袋などの製造がメインの仕事だが、この防災用品だけは自社で企画から販売までを手がけている。「自社商品による地域貢献」を目指した同社は2017年、企画や製造など様々な部署の社員15人でチームを作り、防災

用品の開発に乗り出した。リーダーの北浦浩さん(56)は「同じ大塚グループの大塚製菓が自治体と包括連携協定を積極的に結び、備蓄支援などを進めていた。当社としても技術を生かせないかと考えた」と振り返る。自治体への聞き取りなどから、災害時は特にトイレが問題になることを知った。既存の簡易トイレ商品を調べてみると、組み立てが難しかったり、プラスチックのパーツがあるために使用後の廃棄に手間取ったりする商品があることがわかった。「課題を解決し、深化した商品を作ろう」と2年余りの試行錯誤を重ねた。そして一つの便袋で6回使える「エチケットタイプ」を20年1月に、1回ずつ便袋を交換する「スマートタイプ」を同年12月に売り出した。エチケットタイプはごみの減量を意図し、主に家庭向け。便が外から見えない構造になっている。いずれも平時は折りたたんだ状態でコンパクトに保管でき、外袋は防水包装なので水書時でも使用できる。組み立て時間は30秒ほど。紙素材でもあり、燃えるごみとして処分できるようにし、土台を二重構造にして200kgの耐荷重も持たせた。大塚グループのアイス製菓と共同開発した「抗菌剤配合消臭凝固剤」を使い、高い消臭力も備えている。

抗ウイルスタイプと抗菌タイプの2種類の段ボールベッドも開発した。8個の段ボール箱を連結する形にし、1個だと椅子、4個だとテーブルになるように工夫している。パーティションも商品化した。これらの商品には「人々を永遠（とわ）に救護（レスキュー）する」という意味を込め、「トワレス」というブランド名をつけている。

県内外の自治体や経済団体、社会福祉法人から引き合いが多く、「帰宅困難者用」に買い求めた企業もある。楽天市場などのオンライン通販で一般販売もしている。

長濱正視社長(60)は「トワレスで多くの方の災害への備えが進めばうれしい。能登半島地震のように発災後の支援もしっかりしていきたい」と話している。（東孝司）



「会社の技術で社会貢献ができれば」と語る長濱正視社長。徳島県鳴門市大津町木津野

大塚包装工業 1912（明治45）年、長浜紙函店として創業。62年に大塚グループに加わり、78年に現社名に。ボンカレーやカロリーメイトなどのグループ商品のパッケージのほか、様々な印刷・包装資材を製造している。トワレスの価格は簡易トイレ・エチケットタイプ5500円（税込み）など。